

新収蔵史料展

近代を迎えた在郷町の商家の変貌

—鶴来常山家文書を中心に—

平成26年12月16日(火)～平成27年2月15日(日)

金沢市立玉川図書館近世史料館

近世史料館では、毎年新たな史料の収集・整理・公開をしています。今回展示する史料は、最近整理され公開が可能になったものです。

鶴来は古くから金劔宮の門前町として栄えました。近世に至り鶴来街道起点の宿駅となり、寛文6年(1666)の馬数は115匹で、加賀藩領内では津幡に次ぐ馬数でした。

鶴来町は在郷町として栄え、農業以外に酒造業・煙草が有名でした。酒造業に関しては「加賀の菊酒」の原産地として中世から知られていました。一方煙草は近隣の山村で生産された煙草を鶴来で加工していました。慶応元年(1865)には町の男子労働人口の約4分の1が煙草刻みに従事していたといわれています(『石川県の地名』)。明治になってもこの傾向は変わらず、総家数682戸中250戸が刻み煙草業に従事していました(『皇国地誌』)。

このように在郷町として発展してきた鶴来町には、金子鶴村のような文化人や、小川幸三のような草莽の志士も生まれました。

明治維新を迎え、在郷町として発展してきた鶴来町にもやがて近代化の波が押し寄せてきました。そのような状況に鶴来町の商人がどのように対応していったのか、常山家の史料を中心にしていきたいと思います。

【常山家】

常山家は天保の頃よりの商家で、第二次大戦後も味噌・醤油製造販売を生業としている家ですが(文書番号 No. 113～133 以下No.のみを記す)、江戸時代には質屋も営み、明治初期から大正期にかけては、生糸の製造販売もしていました(『鶴来の民家』)。商売で得た利益で明治以降金融業を営み、土地を集積し、地主経営も行っています。また株式の購入や鉄道敷設事業への投資等様々な事業を展開している様子が見えます。以下常山家が関わった諸事業を具体的に見ていきます。

【鶴来銀行の設立】

常山家が商業資本を最初に投下したのは金融業と土地集積です。先ず金融業から見ていきます。

明治初期鶴来町には誠真社という金融機関がありました。この誠真社の設立者の一人に常山庄八がいました。この誠真社は明治 31 年(1898)に鶴来銀行になりましたが、常山もこの銀行の役員の一人名になっています。昭和の恐慌を乗り切り、黒字経営の鶴来銀行でしたが、昭和 16 年(1941)に北國銀行と合併しました(『鶴来町史』)。

【地主経営】

次に常山家の地主経営を見てみましょう。

大正 8 年(1919)の所

所有地一覧

| | 宅地 | 田地 | 畑地 | 山林 |
|-----|--------|------------------|--------------|-------------|
| 鶴来町 | 1434 坪 | 8 反 1 畝 16 歩 | 3 反 3 畝 16 歩 | 9 反 7 畝 2 歩 |
| 河内村 | | | 2 反 26 歩 | |
| 蔵山村 | 64 坪 | 3 反 1 畝 29 歩 | | |
| 鳥越村 | 274 坪 | 2 町 9 反 6 畝 11 歩 | 6 反 4 畝 12 歩 | |
| 川北村 | | 1 町 4 反 25 歩 | 1 畝 23 歩 | |
| 合計 | 1772 坪 | 5 町 5 反 21 歩 | 1 町 2 反 17 歩 | 9 反 7 畝 2 歩 |

有地は、鶴来町をはじめ石川郡河内村・蔵山村、能美郡鳥越村・川北村にありました。田地 5 町 5 反余、畑地 1 町 2 反余、山林 1 町弱でした(No. 268)。このような土地集積は明治初期から始まり、その一方次々と小作に卸しています。明治 20 年代迄は一作小作が中心でしたが、30 年代になると期間を定めない小作になりました。小作米は蔵山村では田地 1 歩に付き 5 合(1 反に付き 1.5 石)が基準のようでした。このような地主経営が明治期を通して行われていました(No. 39 ~ 66)。

【資本投資】

しかし大正期になると地主経営の拡大はあまり見られなくなりました。それに代わり投資が始まりました。投資先を列挙すると、石川電気鉄道・金沢電気軌道・金沢製材所・加賀醤油工業・石川鉄道・能美電気鉄道・鶴来病院・鶴来運輸倉庫等々多岐にわたります(No. 212 ~ 233)。常山庄八の代からも少し株式の購入はありましたが、常山平章に代替わりした後は株式購入が多くなっています。これらの中でも多数を占め、早い時期(代替わりする前)から投資したのは鉄道関係です。

【鉄道事業】

大正 3 年(1914)設立の石川電気鉄道は、その後石川鉄道と改名しますが、鶴来～新野々市間の鉄道でした。その後大正 12 年石川鉄道は金沢電気軌道に営業権を譲渡しました。金沢電気軌道は他社の買収などをして、この路線は現在の北陸鉄道石川線となりました。

大正 12 年設立の能美電気鉄道は延長工事をしながら昭和 7 年(1932)新寺井～鶴来まで路線を延ばし、鶴来駅で石川線と連絡できるようになりました。この能美電気鉄道も昭和 14 年には金沢電気軌道に譲渡され、北陸鉄道能美線となりました。しかしこの路線は昭和 55 年(1980)に廃線となっています。

鶴来町の小堀定信が中心になって建設を進めた金名鉄道にも常山家は関わっていました。大正 14 年に第 1 期の白山下～加賀広瀬間が完成しましたが、この時常山家は瀬木野村内の田畑を売渡しています。常山平章は小堀定信の協力者の一人だったのではないかと考えられます(No. 35・439)。

【保険】

日本で損害保険会社が最初に設立されたのは明治 12 年(1879)の東京海上保険会社です。また日本最初の生命保険会社は明治 14 年の明治生命保険会社です。常山家では明治 35 年に火災保険に加入しています(No. 184)。生命保険にも翌 36 年に加入しています(No. 366)。

これらの保険の中に時代を反映した保険が含まれていました。それは徴兵保険です。この徴兵保険に大正 7 年(1918)常山庄次郎が、大正 12 年には常山平和が被保険者となり加入しました(No. 410・223)。そして昭和 13 年(1938)に常山庄次郎が臨時召集されたことを事由として保険金を請求したのですが、却下されました。

時代を反映したものとして、支那事変国債がありました。昭和 15 年に購入申込書を書いていました(No. 415)。

常山家の文書から、江戸時代に栄えた商家が、明治を迎え、近代化の中で生き残っていく家の典型を見ることができました。

江戸時代に蓄えた商業資本を、明治の初期には金融資本として利殖を増やし、同時に土地集積を行い地主経営をします。そして合資会社であった金融機関はやがて株式会社の銀行に姿をかえました。

大正期になると、日本の資本主義の発達に伴い、地方でも様々な株式会社が設立されましたが、この頃から株式投資が多くなりました。資本主義の発展に伴い、鉄道網の整備も急務となりましたが、元々宿駅であった鶴来の商家として、常山家はそれぞれの鉄道会社の株式を購入し、鉄道敷設にも関わりました。また運送会社として大正 12 年に設立された鶴来運輸倉庫(のち日本通運に統合)にも投資しました(No. 233)。史料的には少ないので実態はよくわからないのですが、生糸を横浜へも送っていたようです。このような素地があったため、地方の在郷町の商家としては、資本主義の波に乗り遅れることなく、明治・大正・昭和とそれぞれに変貌を遂げながら家を維持できたのでしょう。電話の設置も鶴来に電話が架設された明治 43 年に設置した 44 軒の中に入っていました(No. 369)。

【展示史料一覧】

| 標 題 | 番 号 | 年 月 日 |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| 棚合帳 | 090 - 1376(114) | 明治 13 ～ 33 年 |
| 定時株主総会通知 | 090 - 1376(246) | 昭和 15 年 1 月 11 日 |
| 第八拾四期末貸借対照表 | 090 - 1376(412) | 昭和 15 年 1 月 25 日 |
| 定款変更案 | 090 - 1376(248) | (昭和 15 年) |
| 行員服務心得 | 090 - 1376(252) | 年未詳 |
| 相続届 | 090 - 1376(268) | 大正 8 年 2 月 |
| 地所売渡証 | 090 - 1376(134) | 明治 18 年 7 月 18 日 |
| 耕地小作証 | 090 - 1376(39) | 明治 13 年 2 月 26 日 |
| 耕地小作証 | 090 - 1376(48) | 明治 24 年 4 月 5 日 |
| 土地小作約定証 | 090 - 1376(65) | 明治 35 年 3 月 |
| 石川電気鉄道株金払込領収書 | 090 - 1376(213) | 大正 4 年 |
| 金沢電気軌道株式会社払込株金領収書 | 090 - 1376(214) | 大正 6 ～ 7 年 |
| 能美電気鉄道株式会社払込株金領収書 | 090 - 1376(225) | 大正 14 年 4 ～ 9 月 |
| 株式会社鶴来病院株券 | 090 - 1376(227) | 大正 15 年 6 月 10 日 |
| 常山庄八肖像画 | 090 - 1376(457) | 年未詳 |
| 鶴来運輸倉庫株式会社株払込金領収書 | 090 - 1376(233) | 昭和 5 年 11 月 22 日 |
| 田畑売渡証 | 090 - 1376(35) | (大正) |
| 鉄道敷地一件 | 090 - 1376(439) | 年未詳 |
| 火災保険仮証券 | 090 - 1376(184) | 明治 35 年 6 月 1 日 |
| 尋常終身生命保険証券 | 090 - 1376(366) | 明治 36 年 9 月 8 日 |
| 徴兵保険一件 | 090 - 1376(223) | 昭和 12 年 11 月 17 日 |
| 徴兵保険払戻不合格一件 | 090 - 1376(410) | 昭和 13 年 12 月 23 日 |
| 支那事变国債購入斡旋申込書 | 090 - 1376(415) | 昭和 15 年 |
| 第六回物産品評会褒賞証 | 090 - 1376(351) | 明治 24 年 10 月 26 日 |
| 電話番号通知書 | 090 - 1376(369) | 明治 43 年 10 月 4 日 |
| 白山比咩神社并撰末社明細図書 | 16.61-310(7) | 年未詳 |
| 浅野川電気鉄道他切符コレクション | K6 - 862 | 年未詳 |
| 加越能一町五厘略絵図 | 096.6-267(3) | 年未詳 |
| 加越能諸街道絵図 | 16.78 - 9 | (明治) |
| 石川県地図 | K2 - 1534 | 昭和 13 年 |
| 新野々市・鶴来間時刻表 | 33.11 - 7 | 年未詳 |
| 商品広告 | 090 - 1192(97・99) | 年未詳 |
| 石川県大水害写真帳 | 090 - 1264 | 昭和 9 年 8 月 21 日 |

*掲載史料と展示史料が一致しないことがあります。